

畜産ネットワーク ちば

2008年 1月15日
第10号

発行所 (社) 千葉県畜産協会
〒260-0026
千葉市中央区千葉港4番3号
千葉県畜産会館内
発行人 森 英 介

年頭のごあいさつ

「持続可能な社会」 を目指して



社団法人
千葉県畜産協会
会 長
森 英 介

新年明けましておめでとうございます。皆様方とともに晴れやかな新年を迎えることが出来ますことを、ともに心より喜びたいと思います。

日頃、当協会が行っております「畜産経営に対する支援」、「畜産の活性化」、「畜産物の品質向上」や「家畜衛生」などの畜産に関する各種事業の推進にご理解いただくとともに、ご支援・ご協力賜り心より感謝申し上げます。

さて、昨年一年間を振り返りますと、昨年の世相を表す漢字が、『偽』に決まったことが如実に物語っていますように、1月の不二家に始まり、ミートホープ、白い恋人、赤福、船場吉兆...と、『食品偽装』が相次いで発覚しました。これは、今日までブランド化の確立に取り組んできた生産者はじめ関係者の努力を無にし、畜産物のみならず農産物全体の信頼を失墜しかねない問題といえます。一面、食材の無駄も避けるべきであり、食材の鮮度管理の新たなガイドラインづくりが必要なのではないかと考えます。

また、経済のグローバル化が進展する中で、BRICs（ブラジル、ロシア、インド、中国）はじめ新興国の急速な経済成長による食料需要の増大、原油価格の値上がりによるバイオ燃料の需要の増加、特にその主たる原料であるトウモロコシ需要の急増や、豪州の大干ばつによる小麦の不作など世界各地で頻発する異常気象の影響を受け、国際的に穀物需給はひっ迫し、配合飼料価格の高騰とともに、種々の生産資材の価格も上昇しており、畜産経営を圧迫しております。

このように飼料価格や各種生産資材が高騰し生産コストが上昇する中では、疾病等による事故率を減少させ生産性の向上を図ること、飼料稲をはじめとした粗飼料生産の増大や遊休農地等の活用による放牧の推進、食品残さの飼料化（エコフィード）等の国内資源の有効活用が大事になってきます。また、畜産物の信頼回復、消費拡大を図るには、良質な畜産物を生産することはもちろんのこと、「NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター」や「ちば畜産レディースネットワーク」等の活動を通して、消費者との交流の中で生産現場を公開し、食育を推進することが必要であると考えます。

地球の温暖化が叫ばれている中、私としましても地球百年の計にたって持続可能な社会の構築のため、食料、エネルギー、水、CO₂削減の問題や、地場産業の振興等に自らの使命として取り組んでいくとともに、皆様方と一緒にこの厳しい経営環境を乗り越えて行きたいと願っております。

最後に皆様方の今年のご健勝を祈念致しまして、年頭のご挨拶と致します。

も く じ

- ・年頭のごあいさつ「持続可能な社会」を目指して……(1)
- ・年頭のごあいさつ「農業産出額全国第2位奪還」に向けた畜産重点施策について……(2)
- ・「請願書」を提出、採択される……(3)
- ・養豚経営安定に関わる飼料対策を中心に要請……(3)
- ・地域畜産経営の持続・発展のために……(4)
- ・みなさまのアクセスをお待ちしております……(5)
- ・補てん金交付される……(5)
- ・第45回畜産関係試験研究成果発表会のご案内……(6)

- ・ちばの畜産を大いにアピール……(8)
- ・初めてのNPO法人受託事業、大成功……(9)
- ・佐倉市高宮久男氏に農林水産大臣賞……(10)
- ・最高価格はD雄 201,000円……(10)
- ・初めて消費者も参加、交流を図る……(11)
- ・「ちば産パーク」を大いにアピール……(11)
- ・ちば畜産レディースネットワーク通信……(12)
- ・NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター通信……(12)
- ・編集後記……(12)

年頭のごあいさつ**「農業産出額全国第2位
奪還」に向けた畜産重点
施策について****千葉県農林水産部
畜産課長 鶴岡則夫**

明けましておめでとうございます。平成20年の年頭にあたりごあいさつ申し上げます。

社団法人千葉県畜産協会会員の皆様におかれましては、平素から本県畜産振興に御協力いただき深く感謝申し上げます。

昨年は、米国のバイオエタノール増産政策に伴い、原料であるトウモロコシの需給ひっ迫による世界的な飼料穀物の高騰が畜産業界を直撃し、現在に至るまで畜産現場では厳しい状況が続いています。今年は、飼料費高騰分の畜産物価格への反映等、状況の好転を図るべく、国・関係団体と連携し努力してゆく考えです。

さて、本県の農業産出額は、平成6年から11年間、全国第2位の座を堅持してきましたが、平成17年にその座を明け渡し第4位となり、昨年11月末の発表で平成18年は第3位となっています。

全国第2位を明け渡した要因を分析すると、農業産出額に対する比率の高い園芸、農産部門の落ち込みであるとともに、畜産部門では乳用牛、肉用牛及び豚の伸び悩みであることがわかりました。

この事態を受けて、本県が畜産県として確固たる地位を築くために、3年後を見据えた緊急的に取り組むべき課題を5つ掲げ重点的に対策を講ずることとしたので、その概要を以下に紹介します。

第一は豚肉の安定供給の実現です。

平成17年から北総地域の大規模養豚場を中心に、子豚や肥育豚の死亡事故が多発し、飼養頭数のわりに出荷頭数が伸びていません。これは、慢性疾病の混合感染等による損耗が原因であることがわかっています。このため、実証的に損耗防止のための重点指導を実施するモデル農場の設置や現地検討会の立ち上げなどにより生産者、県機関、市町村、関係団体、開業獣医師等が、一体となった取り組みによる

具体的な対策を講じることにより、事故率の低減を図り、出荷頭数の回復を実現します。

第二は飼料自給率の向上です。

冒頭でも触れたとおり、飼料とりわけトウモロコシに代表される穀類は、そのほとんどを海外に依存しており、海外の情勢が直接国内の飼料事情に影響する不安定な体質となっています。このため、飼料作物の増産及び農場副産物や食品残さの飼料への活用を推進することにより、県内飼料自給率の向上を図り県畜産物の生産体質の安定に努めます。

第三は県産畜産物の知名度向上です。

高い生産量を誇る県産畜産物も消費者や販売店等の実需者に十分知られていません。このため、今までにない希少性や地域の特色を付加価値とした高級銘柄豚を創出することにより県産畜産物のイメージアップを図り、一方で、千葉県産がひと目でわかるシール表示等のPR活動を通じて県産畜産物の知名度向上を図ります。

第四は和牛生産基盤の強化です。

本県は酪農県ということもあり、肉用向けは乳用種や、和牛と乳用種との交雑種が主体です。しかし、牛肉をめぐる国際情勢が予断を許さない状況であることから、今後は本県においても、国際競争力のある和牛生産へのシフトを進めます。そこで、当面は現状の和牛生産基盤を強化するために、県産肥育もと牛の供給増を図り、育種価を用いた手法による優良な繁殖和牛の増頭を進めます。

第五は乳牛個体能力の改良です。

酪農においては個々の経営間の格差が大きく、乳牛個体能力の底上げが急務となっています。そこで、乳牛の個体能力の向上に有効な乳用牛群検定への加入を促進します。また、特に乳質改善の必要な農家については、別途体制を組み重点的に指導することにより、千葉県酪農経営全体の底上げを図ります。

以上の施策は、従来の基本施策と調和を図りながら推進していきますので、皆様の御理解、御協力をよろしくお願いします。

最後に平成20年が、会員並びに関係諸氏にとりまして良い年でありますよう祈念して、末筆ながら年頭のごあいさつとします。

「請願書」を提出、採択される

～千葉県議会へ飼料高騰に関する対策を求める請願～

(社)千葉県畜産協会(会長:森 英介)は、畜産関係団体である(社)千葉県農業協会(会長:村石愛二)およびナイスポークチバ推進協議会(会長:平野拓歩)の連名により、田久保尚俊県議会議長に対し、12月4日「請願書」を提出しました。

県議会では、畜産農家の現在の窮状を理解し、速やかに対応していただき、12月14日には「飼料価格の高騰に対応しうる畜産経営安定の確保に関する意見書」として県議会議長名で、衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣へ提出されました。



県議会自民党畜産振興議員連盟との「請願書」提出に向けての情報交換を行う (2007.11.19京成ホテルミラマーレ)

(養豚部 加藤)

飼料価格高騰に関する対策を求める請願 (抜粋)

請願事項 : 飼料価格の高騰に対応しうる畜産経営安定の確保

1. 配合飼料価格安定制度においては、通常補てん基金の財源不足が生じた場合は、無利子貸付等の運用による適切な対策を措置するとともに、新年度においては万全の財源を確保すること。
また、今後飼料価格の高止まりの恒常化が予想されることから制度の果たすべき機能を検証した上で、十分に経営の安定が図られるよう制度の拡充強化対策を講じること。
2. 国が創設した「家畜飼料特別支援資金」は、飼料価格高騰に伴い資金繰りがひっ迫している生産者が経営存続のために円滑に利用できるとともに、事務手続きの簡素化と支援資金の拡充をはかること。
3. 耕畜連携による自給飼料増産対策及び食品残さの飼料化とその利用を積極的に推進すること。
4. 国・県の主導のもと、飼料高騰により畜産の置かれている実情を消費者に広報し、畜産物の卸売価格や小売価格の値上げが必要である状況について理解を求める運動を展開すること。

養豚経営安定に関わる飼料対策を中心に要請

～関東養豚協議会から若林農林水産大臣へ～

関東地域8県(神奈川県・茨城県・栃木県・埼玉県・群馬県・山梨県・長野県・千葉県)からなる関東養豚協議会(幹事県:千葉)は、12月10日(月)農林水産省を訪れ、若林農林水産大臣に飼料価格高騰への対応や養豚生産者が抱える疾病・環境問題に対する対策等の養豚経営安定に関する要請をしました。



生産者の窮状を訴えるJPPA志澤会長



飼料価格高騰による対策を訴える堀江千葉県代表



要請に対し回答する若林農林水産大臣

要請内容は特に飼料価格高騰への対策として、養豚農家の窮状を訴え、継続的に経営の安定が図れる新たな基金制度創設と十分な予算確保を求めました。

また、豚肉小売価格の値上げに向けた消費者への理解の醸成や臭気対策などの畜産環境への新たな補助事業の創設、豚サーコウイルスワクチン早期承認などの要請内容について意見を交わしました。

若林大臣から、要望に対し十分ご理解いただいた旨の回答を得ることができました。

(養豚部 加藤)

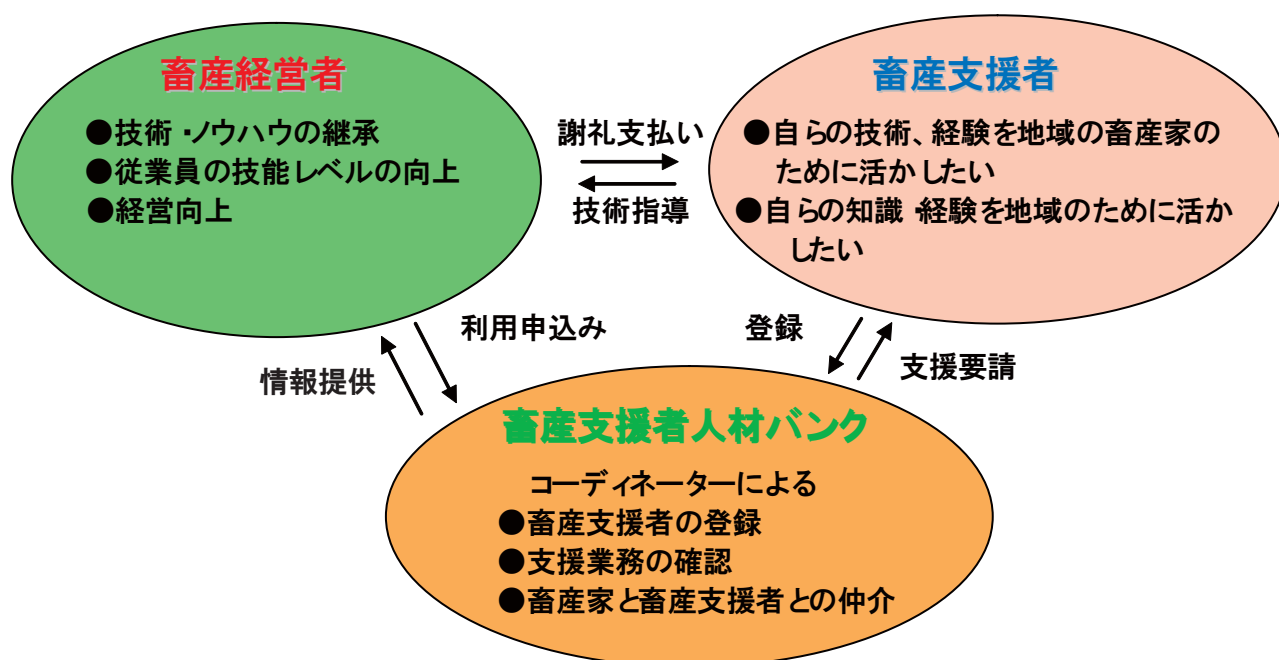
地域畜産経営の持続・発展のために

～人材活用モデル体制整備事業を開始しました～

畜産を取り巻く環境は大きく変化し、農家戸数の減少による地域における孤立化とともに、経営の専門化、大規模化、生産技術の高度化が進んでいます。このため、経営支援に対する農家のニーズも専門化、多様化するとともに、求められる人材も細分化しております。特に畜産に関する情報やノウハウを有し、的確なアドバイスを行える人材の必要性が高まっており、その確保と供給体制が緊急の課題です。

このような状況を踏まえ畜産経営の持続・発展に資することを目的に「人材活用モデル体制整備事業」を始めました。この事業は経営戦略の見直しや新規事業展開のために人材を必要としている畜産農家や畜産団体と、知識・経験・ノウハウを活かしたい意欲のある人材とのマッチングを支援する事業です。

モデル事業の仕組み



畜産経営者の皆様へ

豊富な実務経験と知識を有した人材をパートナーにして経営の飛躍をめざしませんか。

「人材活用モデル体制整備事業」では、多様化する畜産経営のニーズを調査・分析を実施中です。あなたの必要とする支援分野を教えてください。

- ① 家畜管理 ② 家畜生産 ③ 畜産経営・税務 ④ 家畜衛生 ⑤ 飼料生産・利用
 ⑥ 畜産物加工・利用 ⑦ 畜産行政 普及教育 ⑧ 食育、イベントなど
 ⑨ 団体事務 ⑩ 農村開発

などがあります。

畜産技術者の登録のご案内

高度な技能をお持ちの方、自らの知識・技術・経験を畜産農家のために活かしたい方の登録申込みをお待ちしております。畜産農家等からの支援申込みにより、畜産現場での技術指導等の支援を実施していただきます。

(事業部 前之園)

みなさまのアクセスをお待ちしております ～千葉県肉牛生産農協がHPを開設しました～

県産和牛ブランド化推進事業や肉用牛繁殖基盤強化総合対策事業をはじめとする肉牛に関わる各種事業を推進する千葉県肉牛生産農業協同組合では、肉牛関係者のみならず酪農家など対象者が広範囲に渡る事業を展開しております。

より多くの方々に肉牛生産農協を知っていただくため、この度ホームページを開設しました。アドレスは以下のとおりです。まずはHPをご覧ください



HPアドレス <http://www.chiba-nikuushi.jp/>

HPでは、肉牛生産農協の概要や県産和牛ブランド化推進事業をはじめとする各種事業の説明、セリ市の詳細、和牛の子牛登記など、肉牛に関する様々な情報が掲載されており、またこのホームページからも肉牛生産農協へのお問い合わせもできます。

肉牛や和牛受精卵をはじめとする様々な肉牛に関するお問い合わせ、今後繁殖和牛を飼ってみようとお考えの方、アクセスやご質問をお待ちしております。

(経営支援課 宮上)

補てん金交付される

～肉用子牛生産者補給金制度で1年ぶり

肉用牛肥育経営安定対策事業で前四半期に引き続き～

平成19年7月～9月(第2四半期)の期間を対象に、子牛基金・マルキン両事業において補てん金が交付されました。子牛基金は、乳用種の品種のみ対象で、昨年の同期間以来1年ぶりの発動となりました。マルキンの発動は前四半期に引き続きの補てんで、乳用種・交雑種の品種が対象で、交雑種の発動は3年ぶりとなりました。

両事業の公表結果は以下のとおりです。

(価格安定課 金杉)

《肉用子牛生産者補給金制度 平均売買価格》

(単位：円/頭)

区分 \ 品種	黒毛和種	褐毛和種	その他の肉専用種	乳用種	交雑種
保証基準価格	304,000	280,000	200,000	110,000	175,000
合理化目標価格	267,000	246,000	141,000	80,000	135,000
平均売買価格	495,600	346,100	247,800	90,200	209,300
補給金単価	—	—	—	19,800	—

《肉用牛肥育経営安定対策事業 算定結果》

(単位：円/頭)

		肉専用種	交雑種	乳用種
四半期平均推定粗収益	(A)	990,550	563,376	332,499
四半期平均推定生産費	(B)	821,335	530,808	339,873
四半期平均推定所得	(A) - (B)	169,215	32,568	△7,374
補てん金単価		—	6,900	22,700

第45回畜産関係試験研究成果発表会のご案内

千葉県農林水産技術会議畜産部会では、試験研究の成果発表会を開催し、広く関係者の皆様に成果の内容をお知らせするとともに、皆様からの提言を今後の研究成果に反映させたいと考えています。

参加は無料で、事前の申し込みも必要ありません。開催日時、場所、課題名等は下記の通りです。

お誘い合わせの上、多数のご来場をお待ち申し上げます。

<酪農・肉牛部門>

日時：平成20年1月25日（金）10時30分～15時

場所：さんぶの森文化ホール（さんぶの森公園内）

山武市埴谷1904-5

（TEL0475-80-9100）

〇乳用種末経産牛を用いた受卵牛の効率的な発情同期化方法

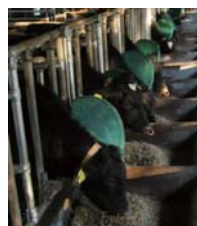
受精卵移植技術の利用によって、人工授精と同程度の妊娠率が得られるようになってきた。技術の効率化の決め手となった乳用種末経産牛の同期化法について紹介する。

〇生米ぬかの給与が黒毛和種去勢牛の脂肪質・食味性に及ぼす影響 生米ぬかペレット

不飽和脂肪酸含量の多い生米ぬか、または脱脂米ぬかを給与し、牛肉の脂肪質について検討したところ、生米ぬかを給与した牛肉はオレイン酸などの不飽和脂肪酸割合が高くなった。



〇飼料イネサイレージは交雑種去勢牛の粗飼料として有効



採食風景



開封直後のロール

交雑種去勢牛に飼料イネサイレージ（稲発酵粗飼料）を稲わらの代わりに給与すると、牛の嗜好性が良く、肉質も良好で、牛肉中のビタミンE含量が高くなる。



各試験区の牛肉



テストサンプル

〇稲発酵粗飼料給与牛肉の官能評価

上記試験での産肉を用い、4回、延べ1,180名による官能評価を実施したところ、稲発酵粗飼料を給与した牛肉の食味は慣行法で飼育された牛肉と同等かそれ以上の評価を得た。

〇イネホールクロップサイレージと食品製造粕を原料とした搾乳牛用発酵TMRの給与実証試験

県内酪農家において、イネWCSと食品製造粕等を混合・発酵させたTMR飼料を給与し、農家の慣行飼料給与群と比較して搾乳牛用飼料として十分に利用できることを確認した。



採食風景



TMR保管状況



放牧風景



〇遊休地を利用した小規模移動放牧技術

遊休地、耕作放棄地を有効利用できる繫留放牧（杭に繋いだロープを利用した放牧）を中心に簡易電気牧柵を利用するなどの小規模移動放牧技術について紹介する。

<養豚部門>

日時：平成20年2月13日（水）10時～13時30分

場所：印旛合同庁舎（印旛農林振興センター）

佐倉市鍋木仲田町8-1（TEL043-483-1128）

〇二元交雑豚WDの産肉性に及ぼす止め雄系統の影響

系統豚「ボウソウW」に、止め雄としてユメサクラ、しもふりレッド、サイボクの3系統を交配した二元交雑豚WDの産肉性について比較したところ、ユメサクラを交配したものが良好であった。

〇中ヨークシャーに県産規格外カンショを給与した特徴ある銘柄豚づくり

アミノ酸のリジン濃度を調整した飼料を給与すると霜降り豚肉が生産できる技術を応用し、県特産のカンショを飼料化することにより、中ヨークシャーを用いた特徴のある豚肉生産技術を確立した。

養豚部門会場地図



中ヨークシャー



ローズ断面

○肥育豚におけるコンビニエンスストア残さの利用

肥育豚に、乾燥処理したコンビニエンスストア残さを、肥育開始から出荷までの全期間、肥育用飼料に配合して給与したところ、発育成績や肉質成績は良好であった。

○DNAマーカーによるトレーサビリティシステムの検証

開発した親子判定技術を使って、トレーサビリティシステムを取り入れている生産農家の種豚と販売肉の親子判定および各流通段階での個体識別を行い、システムの検証を行った。

○トレーサビリティシステム導入に伴う農家経営に及ぼす効果

トレーサビリティシステム導入に伴う労働作業を軽減するため、同一出荷ロットの同腹豚の日齢間差を50日から30日に縮めることで作業時間の短縮効果が示唆された。

○レーダーチャート成績表を活用した一養豚組合における環境・衛生指導の効果

環境・衛生検査（AD, PRRS, PCV2, MPS, Bb抗体及び豚舎形態、落下細菌数、NH4濃度、密飼度、清掃状況）の結果を指数化し一目でわかる成績表を作成、組合検討会で成績を公開し地域で改善に取り組んだ。



タッチパネルによる履歴検索



データ入力

出荷豚の振り分け

※ 引き続き、同会場にて養豚大会が行われます。

平成19年度 千葉県養豚大会 主催：千葉県畜産協会

講演：「食品残さ利用飼料の安全性確保のためのガイドラインについて」

関東農政局消費・安全部安全管理課 春日洋文 氏

「豚疾病対策のための衛生管理について」

～サーコワクチンの適切な利用に向けて～

ベーリンガーインゲルハイムベトメデカジャパン（株） 菊入鉄大 氏

みなさんぜひご参加ください。

＜養鶏部門＞

日 時：平成20年2月14日（木）10時～14時

場 所：成田国際文化会館

成田市土屋303（TEL0476-23-1331）

○強制換羽用飼料利用による強制換羽の検討

栄養価がほとんど無い飼料を給与し換羽に導く方法が広まってきている。絶食によりSE感染が重度になるが、飼料給与群は軽度であった。産卵成績は銘柄によって異なった。

○高脂肪高タンパクエコフィードの採卵鶏への応用

コンビニエンスストアから排出される消費期限切れなどの食品の内、高脂肪の素材をフレーク状にし、採卵鶏に7.5%、15%の割合で配合した飼料を1年間に渡り給与した結果、給与群が良好な成績を示した。

○高脂肪高タンパクエコフィードのブロイラーへの応用

コンビニエンスストアから排出される消費期限切れなどの食品の内、高脂肪の素材をブロイラーに7.5%、15%の割合で配合した飼料を給与したところ、添加群は体重などで良好な値を示した。

○加熱加工飼料配合による採卵鶏の排せつふん量低減化の検討

加熱加工飼料を25、50、100%配合した一般採卵鶏用配合飼料をジュリアに給与し、排せつふん量および成分、生産性などに及ぼす影響について調査した。

○ワクモの防除に対するいくつかの試み

市販殺虫剤の大半にワクモの抵抗性が生じてきている。そこで、殺虫剤以外にワクモ防除に寄与するものをいくつか検討した。

○採卵鶏の銘柄別性能比較試験

採卵鶏のボリスブラウン、シェパードブラウン、ゴトウさくら、ハライソニア、ジュリア、バブコック、ハライマリ、デカルブTXの8銘柄について育成成績、産卵諸性能、卵質、糞中水分率などを調査した。

ワクモ（卵から成ダニ）



ジュリアによる試験風景

養鶏部門会場地図



※ 引き続き、同会場にて鶏病研究会技術研修会が開催されます。

鶏病研究会千葉県支部平成19年度第4回技術研修会 主催：鶏病研究会千葉県支部

講演：「鶏舎のネズミとその駆除」

大丸合成薬品株式会社 代表取締役社長 長岡健次 氏

みなさんぜひご参加ください。



ちばの畜産を大いにアピール ～千葉県畜産フェア 船橋競馬場で 「食べよう・話そう・知ろう」の テーマでさまざまなイベントを開催～



平成19年10月13日(土) 船橋競馬場ふれあい広場において(社)千葉県畜産協会と千葉県畜産物消費拡大推進協議会主催で関係者、関係団体、出展団体の協力、又多数の団体に協賛を頂き盛大に開催しました。開会式で挨拶に立った松田専務は日頃の生産者の苦労と安全・安心を消費者に大いにPRをして頂きたいと激励しました。

当日は天候にも恵まれ親子連れからお年寄りまで5,000人の県民が訪れ、「食べよう」コーナーでは、房総ポークC・そうさ若潮牛の焼肉販売、房総ポークC加工品・国産はちみつ・厚焼玉子・鶏卵・アイスクリームの販売「話そう」コーナーでは、NPO法人による畜産相談・千葉県獣医師会、動物保護管理協会によるペットしつけ・健康相談コーナーでの消費者との対話「知ろう」コーナーではレディースネットワークによる畜産品展示コーナー、千葉県酪連による搾乳体験、千葉県牛乳普及協会の骨密度測定が出店され各コーナーに行列となり畜産品の販売、畜産のおかれている現状、畜産農家の大変さ等を来場者にPRしました。



房総ポークCやそうさ若潮牛の焼肉販売は大人気
焼けばすぐに売り切れました



畜産ウルトラクイズでは、多数の参加者が
クイズに答えながら畜産を勉強

中でも搾乳体験コーナーでは牛を見て触るのも初めての親子連れの参加者でにぎわいました。又、県畜産課の協力による畜産ウルトラクイズには豪華な賞品が各協賛団体から当選者にプレゼントされました。参加者はみて、さわって、食べて、畜産を身近に感じることができました。今後も県内の畜産を生産者と共に積極的に宣伝し、消費者との交流の場として行きたいと考えております。(事業部 大崎)



みつばちをじっとみる

牛のおっぱい
あったか〜い!



骨密度測定では、多くの
参加者が列を作った



ペット相談コーナーや
骨密度測定では、多くの
参加者が列を作った



手に持っているのは
子牛の哺乳びん

エサのにおいはどんなにおい?



初めてのNPO法人受託事業、大成功 ～「草地活用植樹等事業」を実施～

このたび、関係機関の支援を得て、当NPO法人として初めての受託事業である『草地活用植樹等事業』を無事終了することができました。



当事業は、千葉県緑化推進委員会と社団法人千葉県畜産協会を通じて社団法人国土緑化推進機構から委託を受けたもので、『(略)青少年等による畜産堆きゅう肥等の畜産資源を活用した森林づくり活動等を通じ、畜産・森林資源の効率的な利活用の推進及び温暖化防止等について普及啓発を行う草地活用植樹等事業を実施し、畜産の振興に資する(略)』というのが当事業の趣旨です。

平成19年10月16日(火)、千葉県乳牛育成牧場(千葉県畜産総合研究センター市原乳牛研究所)を会場にして、『家畜とのふれあい』と『畜産堆きゅう肥を活用した植樹』を通じた交流会を市原市内の二つの小学校児童と行いました。

当日は小雨模様でしたが、午前は山間部(市原市最南)の白鳥小学校1,2年生20名、午後は都市部(同市最北)の千種小学校3年生140名に対して、NPO会員及び千葉県畜産総合研究センターと千葉県畜産協会職員の合計10名が指導員となり子牛へのエサやりや苗木の植樹等、大部分の児童にとっては初めての体験をしてもらいました。



植樹の前に家畜とのふれあい

両校ともに低学年の児童であったため、ケガをさせてはいけなそういふ心配しましたが、一人のケガ人もなく交流会を無事終了することができました。この交流会を通じて、幼い児童たちが家畜のぬくもりと樹木の大切さを肌から感じ取ってくれたものと思います。

標記事業を受託するに当たって、計画通りに遂行できるかどうか一抹の不安もありましたが、関係機関の全面的なご支援をいただいたことにより、目的を十分に果たすことができました。

最後になりましたが、ご支援いただいた関係機関及び関係者の方々に厚く御礼申し上げますとともに、初めての受託事業が成功裏に終了したことについてご報告いたします。(NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター 事務局 高梨)



みんなで力をあわせて植樹



植樹した木を前に記念撮影

平成19年度千葉県家畜保健衛生業績発表会が開催される

平成19年12月18日(火)に、千葉県教育会館大ホールにて、平成19年度千葉県家畜保健衛生業績発表会が開催されました。家畜保健衛生業務に従事している県職員により、疾病による損耗防止対策及び環境対策等の飼養管理の改善指導や、疾病の発生事例とその対策について、計15題の発表がありました。

また、発表演題の中から、第49回関東甲信越ブロック家畜保健衛生業績発表会において発表する3題が選出されました。演題名は「豚の慢性疾病低減に向けた取り組み」「業務管理機能を兼ね備えた新防疫マップシステムの構築」及び「豚サーコウイルス2型(Group1(EU型))による豚サーコウイルス感染症とその浸潤状況調査」です。今回のブロック発表会は、平成20年2月6日(水)に新潟市民プラザ(新潟県)で開催されます。

(畜産課 一円)

佐倉市高宮久男氏に農林水産大臣賞

～13年ぶりの快挙、肢蹄改良の努力実る～

今年度の千葉県豚共進会は、肉豚の部を10月2～4日旭市の千葉県食肉公社を会場として、また、種豚の部は10月30～31日、八街市のJA全農千葉八街家畜市場において開催されました。

L・雄としての大臣賞・受賞は平成6年以来13年振りの快挙です。

名誉賞は以下の方々が受賞されました。

(養豚部 江ヶ崎)

部	類	品種	名号	出品者
肉豚の部	第1類	LWD	ナリタイイダ1～2	成田市 飯田喜一
	第2類	LWD	ヒカタサトー1～8	旭市 佐藤祐一
種豚の部	牡齢	L	ドルマン カレル リッジ タカミヤ11-4	佐倉市 高宮久男



【種豚の部】農林水産大臣賞を受賞した高宮久男氏出品豚



【肉豚の部第1類】(2頭1組)

名誉賞受賞の飯田喜一氏の出品豚

【肉豚の部第2類】(8頭1組)

名誉賞受賞の佐藤祐一氏の出品豚



最高価格はD雄 201,000円

去る平成19年10月31日(水)、JA全農ちば八街家畜市場において第24回千葉県種豚オークションが行われ、純粋種48頭、F156頭が出品されました。セリの結果は以下のとおりです。(養豚部 江ヶ崎)

セリの結果

	品 種	性別	入場頭数	成立頭数	最高価格	最低価格	平均価格	備 考
純粋種	ランドレース	雌	1 4	3	55, 000	40, 000	50, 000	最高価格：リザーブチャンピオン
		雄	2	0	—	—	—	
	大ヨークシャー	雌			—	—	—	
		雄	1	0	—	—	—	
	デュロック	雌	1	0	—	—	—	
		雄	3 0	2 5	201, 000	72, 000	118, 960	最高価格：グランドチャンピオン
F 1	L ・ W	雌	5 0	4 7	59, 000	35, 000	44, 596	
	W ・ L	雌	6	1	—	—	45, 000	推奨豚
計			1 0 4	7 6	201, 000	35, 000	69, 276	販売成立 73. 1 %

注) セリの価格は消費税抜きです。

購買者26名

前日枝肉価格450円

**次回のオークションは平成20年2月6日(水)
に開催いたします。よろしくお願いいたします。**

初めて消費者も参加、交流を図る

～ナイスポークチバ推進協議会活動報告会2007開催～

平成19年12月6日(木)千葉市内のホテルにおいてナイスポークチバ推進協議会による活動報告会が生産者はじめ来賓・消費者・賛助会員総勢183名の参加を得て、盛大に開催されました。

来賓として(社)千葉県畜産協会・衆議院議員森英介会長、県議会から自由民主党畜産振興議員連盟会長の成尾副議長はじめ16名の県議会議員や県、中央団体から多数のご出席をいただきました。

今回新たな企画として、平成18年度からスタートした県産ポークサポーター会員(消費者)188名の中から10名を招待し生産者・関係者との交流を図りました。

報告会は平野拓歩会長の挨拶の後、塩澤英一副会長から豚サーコウイルスワクチン、WTO及びEPA・FTA交渉や差額関税制度および飼料高騰に対する様々な要請活動、チェックオフ活動やエコフィード利用推進のための活動など、この1年間の活動概要を映像を交えて報告しました。

また、食育推進のためのDVDを放映し、10名のサポーター会員からは斉藤裕治君(生産者)がレポーターとなり、会員になった感想(〇×回答)と県産豚肉についての感想・要望などを質問しながら交流を図りました。

消費者のテーブルでは生産者と消費者の話が弾み、サポーター会員は限定100名で単年度限りとの制約があり、これだけ県産ポークのPRをしているのだから是非とも20年度もサポーター会員として認定を受けて活動したいとの消費者会員から要望が強く出されるなど、終始和やかな懇談ができました。また、生産者と消費者との交流は大変良かったとのご意見を参加者の方々から数多く頂きました。最後は、平野正明会

長代理の「とん・とん」で締め、会を閉じました。

来年は10周年を迎えるに際し、さらに消費者との交流を深め県産(国産)ポークの販売促進を図るため、新たな企画を検討してまいりますので、是非ともご意見・提案をお願いいたします。(養豚部 江ヶ崎)

消費者と生産者、来賓が一堂に会する交流会となりました



「ちば産ポーク」を大いにアピール ～千葉市市民産業まつりin2007に参加～

千葉市主催の第34回千葉市市民産業まつりが11月3日(土)

・4日(日)の2日間開催されました。

恒例の消費者との交流会として、生産者、関係者の協力により千葉県の養豚・美味しい「ちば産ポーク」を大いにアピールすることができました。

好天にも恵まれ2日間で12万人の来場者が訪れ、2日間で焼き肉120kgの販売・アンケートに答えた方から抽選で100名にロース肉1kgのプレゼントなど盛りだくさんの内容で行い、大変好評でした。(養豚部 江ヶ崎)



ちば畜産レディースネットワーク通信

以下のイベントを行いましたので、その詳細をご報告します。

☆ちば畜産レディースネットワーク消費者との交流会

平成19年10月13日船橋競馬場にて行われた「千葉県畜産フェア」に当ネットワークが参加し、日々使っている飼料や道具及びパネル展示を行い消費者と直接対話しました。

非常に熱心に話を聞く消費者の方もおり、関心の高さがうかがえ、今後も消費者に向けた活動が重要であることを痛感しました。

☆ちば畜産レディースネットワーク研修会・交流会

平成19年11月5日千葉市ホテルプラザ菜の花にて研修会・交流会を行いました。会員、県下関係機関など30名程が集まりました。研修会では、飼料輸出入協議会江藤専務理事より飼料高騰のメカニズムを学び、交流会では参加者が日頃考えていることを語り合い、大変有意義な一日を過ごしました。

今後とも様々な活動を行っていきますので、会員のみなさまにはご協力をお願いいたします。(経営支援課 宮上)



イベントを終え充実感



交流会のあとみなさんで

詳しいお問い合わせは…ちば畜産レディースネットワーク事務局(千葉県畜産協会内・宮上)まで
TEL: 043-242-8299 FAX: 043-238-1255

NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター 通信

平成20年1月現在、当NPO法人の会員数は、正会員32(個人24・団体8)、賛助会員6(個人5・団体1)となりました。最近加入いただいた方は正会員3名(団体)で、生産者(酪農)・農林水産省OB・1団体です。当NPO法人では、会員を幅広く募集しております。加入をご希望される方をお待ちしております。いつでもお申し込みください。(なるべく正会員をお勧めいたします。)

入会金: 個人1,000円 団体5,000円 年会費: 個人3,000円(正会員・賛助会員とも) 団体: 正会員1,000円 賛助会員 5,000円

●人材活用モデル体制整備事業との連携

畜産の振興を図るため、当NPO法人は(社)千葉県畜産協会が事業主体の標記事業(平成19~21年度)と十分な連携を取りながら各人材を活用した支援活動を充実していきたいと考えておりますので、皆様方のご協力をお願いいたします。

●(社)畜産技術協会募集の平成20年度委託研究開発事業への応募について

上記事業に対して、当NPO法人では繁殖率向上のための指導方法に関するものを提出しました。今後とも当NPO法人では、様々な活動を行っていきますので、ご協力をお願いいたします。(事務局 高梨)

入会申込みや畜産に関するご相談等をお待ちしております。

お問い合わせは…NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター事務局
TEL: 043-242-8299 FAX: 043-238-1255

編集後記

新年 明けましておめでとうございます。

皆さん お正月はいかがでしたか? 動物を飼われている方にとっては、所謂「正月休み」などということではできず、ましてや「寝正月」など、とんでもないことでしょう。

昨年は北海道の「ミートホープ社」や秋田県の「比内鶏」などの畜産物をはじめ、「白い恋人」や「赤福」、「船場吉兆」などの問題が起ころ、企業の食の安全・安心に対する姿勢・意識が問われ、消費者の食に対する信

頼が大きく揺らいだ一年でした。誰もが「未だにこんなことをやっていたのか。」と思ったことと思います。

川上といわれる生産段階で、飼料はじめ各種資材が高騰する中で、トレーサビリティや昨年5月に施行されたポジティブリストに対応するなど、生産者は生産する「畜産物」を、責任をもって世に送り出しているのに…。

今年はこのようなことのない良い年にしたいものだと思います。

(家畜衛生部 樋口)

総務課	TEL 043-242-5417(代)	FAX 043-238-1255	info@chiba.lin.go.jp
経営支援課	TEL 043-242-8299	FAX 043-238-1255	
価格安定課	TEL 043-242-6333	FAX 043-238-1255	tb-koushi@pop21.odn.ne.jp
衛生指導課	TEL 043-241-1738	FAX 043-241-3853	chieishi@aiores.ocn.ne.jp
養豚課	TEL 043-241-3851	FAX 043-241-3853	egasaki@np-chiba.jp